$\overline{}$
傍
線
$\mathcal{O}$
部
分
は
改
正
部
分
$\overline{}$

得て、より多くの住民の献血への参加を促進するため、地域のと都道府県及び市町村は、国、採血事業者等の関係者の協力を(略) (略) 一献血に関する普及啓発活動の実施 一	る。	年度までの献血の実施状況とその評価を踏まえ、平成二十四年度までの献血の実施状況とその評価を踏まえ、平成二十四前節の目標量を確保するために必要な措置に関する事項第二第二	より確保する必要がある。	血による六十三万リットル(血漿採血二十八万リットル及び血 二十四年度には、全血採血による百四十五万リットル及び成分 成1	さらに、確保されるべき原料血漿の量の目標を勘案すると、平ル、十七万リットルが製造される見込みである。	〇・〇〇二万リットル、五十四万リットル、二十七万リッ   ぞ二十七万リットル、血小板製剤十七万リットルであり、そ   製	血製剤○・○○一万リットル、赤血球製剤五十四万リットル、血血型の製剤○・○○一万リットル、赤血球製剤五十四万リットル、血血管製剤の量は、全血の大力を表現の重は、全血の関系を表現して、	平成二十四年度に献血により確保すべき血液の目標量 第一づくものである。 によ	基本的な方針(平成二十年厚生労働省告示第三百二十六号) ため	画であり、血液製剤の安全性の向上及び安定供給の確保を図る   る計デ一項の規定に基づき定める平成二十四年度の献血の推進に関す   条第	計画は、安全な血液製剤の安定供給の確保等に関する法律第十 本記平成二十四年度の献血の推進に関する計画	改 正 案
得て、より多くの住民の献血への参加を促進するため、都道府県及び市町村は、国、採血事業者等の関係者の(略)(略)	る。年度の献血推進計画における具体的な措置を以下のように定め	年度までの献血の実前節の目標量を確保	より確保する必要がある。 板採血三十五万リットル)の計二百七万リットルの血液を献血	血による六十二万リットル(血漿採血二十七万リットル及び血二十三年度には、全血採血による百四十五万リットル及び成分	さらに、確保されるべき原料血 漿の量の目標を勘案すると、平十七万リットルが製造される見込みである。	れ〇・〇二万リットル、五十四万リットル、二十七万リッ剤二十七万リットル、血小板製剤十七万リットルであり、	製剤〇・〇二万リットル、赤血球製剤五十四万リッ平成二十三年度に必要と見込まれる輸血用血液製剤	平成二十三年度に献血により確保すべき血液のづくものである。	基本的な方針(平成二十年	画であり、血液製剤の安全性の向上及び安定供給の確保を図る一項の規定に基づき定める平成 <u>二十三</u> 年度の献血の推進に関す	計画は、安全な血液製剤の安定供給の確保等に関平成二十三年度の献血の推進に関する計画	現行

等 実 を 情 行うことに に 応じ ょ 象 ぶとな 9 る 献 年 血 齢 0 層 関 0 心 を高 啓 発、  $\Diamond$ ること 献 血. 推 が 進 必 組 要 織 で  $\mathcal{O}$ あ 育 る 成

Þ 認  $\mathcal{O}$ 情 Þ 高 を 8  $\mathcal{O}$ 声 に 促 実 道 で て、 きる を伝えること等 普 報 献 齢 実 医 施 府 Þ 検 血 対 国 す 療に 及 を 施献 Ļ す 査 液 Ш. 社 県 血. を 製 啓 伝 لح る 診 可 会 し、 血. 血 事  $\mathcal{O}$ 目 剤 発 え 能 を 欠 病 境 者 業 0) 道 市 と等に 徹 的  $\mathcal{O}$ 0) 人 迎 又 正 くこと 気や に、 町 0)  $\mathcal{O}$ 者 府 とし はこ 県、 底 安 手 献 えたことによる血 村 安 L は は 全 法 血  $\mathcal{O}$ 怪 献 等 備 全 V ずにより、 性の 者等 れに もとよ た 等 減 知 (T) 我 血. ょ  $\mathcal{O}$ 性 市 を 玉 少、 **り**、 献  $\mathcal{O}$ 識 で  $\mathcal{O}$ 町 関 行うことが へ の 村、 (きない や必要 血 確 改  $\dot{O}$ .協力することが必要であ ために輸血 係 配 かり、 多善に 保の 一を行わな 意見を踏 協力を呼びかけることが 者 慮 血. 献 血液製剤 と協 採血 でするととも 血 血. 府 ため 平素から様 . 努めることが 一液製剤 や血 性 県 有 一液製剤 事業者及 重 限 力 まえ で貴重 を受け して効 主要であ 7 の利 血.  $\mathcal{O}$ 液 市 よう、 がこれ 製剤 取 液 町 に、 を必必 製剤 つつ、これ 用 組 村 はなな広 た患者 果的 る。 に関 0) 実 な び 等 火態等 に もの を必 献 医 必 要とする について 0 環とし この 之要であ する 血. 療 な 関 続 る。 であ \$ 関 報手段を用 要とする患 キ 係 に L ため つい お 5 求 ヤ て 係 者 その て、 る。 ま ることを含 層 け 0) 患 0 者  $\otimes$ 献  $\mathcal{O}$ きた、少子を発発 は、 ~ る 者 情 て 6  $\mathcal{O}$ 血 協 感染 さら 家族 本 正 0 1 報 れ 理 玉 力 る。 増 者 ンを 人 提 確 玉 解 協 を 1 て 確 症 供 な加  $\mathcal{O}$ 民 を 力

> 声 に

 $\mathcal{O}$ 

<del>\_</del>+ あ 玉 民に 成 玉 七 + 対 日 に 道 て 年 実 府 兀 施 県 -分に広 月 さ れ 市 日 た 町 公報を行 英国 に 村 及び 施 間滞在歴 行 採 された採 血事業者 献 に よる献 Ш. への協 血. は、 基 準 血. 加力を求 平 0) 制 成 改 限 正  $\mathcal{O}$ + め に 見 る必 0 直 ٧١ 年 L 及び 要 て、 月 が

玉

に

周

知

徹

底

す

んる必

要が

あ

素

る

なめ

1

効 果 的 な 普 及 啓 発 献 血. 者募集等 0 推 進

> なる を 行 うことに 年 齢 層 Þ ょ 地 ŋ 域 0 献 実 情 血 に  $\sim$ 応じ 0 関 た 心 啓 を 高 発 8 ること 献 血 推 が 進 必 組 要 織 で 0 あ 育 る。 成 等

献 実 道 できる て、 施 採 血. 府 へ の 県、 すること等に 献 血 環 血. 協 市 境 者 力を 町  $\mathcal{O}$  $\mathcal{O}$ 者 村 安 は 呼 備 全 Ü を行 ょ 0 性 玉 カコ 関 けることが 係 うことが 配 者 慮 道 上と協 するとと 血. 府 B 県 血. 重 力 液製剤 求められ 要 市 文であ て効果的 Ł 町 村 る。 に関する一 る  $\mathcal{O}$ このため、 な 続 関 キ 係 ヤ て 者 ンペー 献 層  $\mathcal{O}$  $\mathcal{O}$ 血. 協 理 玉 に 力 ンを 解 協 を 力 都

め、 国、 製剤 を伝えること等 カュ 0) ることが 医 対 11 ま  $\mathcal{O}$ 力 5 よう、 一療に 取 えつつ、これ 利 Ļ 様 組 用 を 々  $\mathcal{O}$ 実 必 欠くこと 病 道 な 献 態 気や 必 要 府 要であ とす 広 環 等 県、 Ш. 一報手段 とし に 製 怪 に 必 要であ んる患 剤に により、 お 5 つ  $\mathcal{O}$ 我 市 て、 る。 け 0) *\*\ できない 0 町 る本人 について を用 て 正 者の ため 情 村、 さら る。 感 報 染 提 確 増 に 1 血 八確認や な情 て、 また、 有限 0) 輸 症 供 加 液 血. 普及 0 É B 製 事 血. 日報を伝 献 剤 業者及び医 検査を目 普及啓発 を受けた患者 玉 血液製剤 で 貴重・ 少子高 問 民 血可 啓 がこれを必 診の 発 に だ実施 能 周 なも え 徹 知 的  $\mathcal{O}$ 人 齢 安 とし 徹 底 手 献 口化 のであることを含 療 全 の減 P 底 は 法 血.  $\mathcal{O}$ 要とする 関 た献 す Ł 者 進 係 少、 行に 又は る そ  $\mathcal{O}$ 0) 等 者 必 ょ 血 確 改 0  $\mathcal{O}$ は 一を行 保 善 意 ょ 家 血. が  $\mathcal{O}$ に 見 液 る れ 者 族 玉 あ 平わ た 努 を 製 血

踏 剤 液 協

 $\otimes$ 

二 十 あ 玉 民に 成 国 七 二十三年 対 日 都 L に 道 て 十 実 府 施 兀 県 -分に広 さ 月 一日 れ 市 た 町 報を に施 英国 村 及 行される採 滞 び 在 採 歴 血. に 献 事 よる 業 Ш. へ の 者 Ш. 基 献 は 協 血. 力 0 制 平 を 改 限 成 求 正  $\mathcal{O}$ +  $\Diamond$ に 見 る必 0 直 L て、 要 及 月 が び

果 的 な 普 及 啓 発、 献 血. 者募集等 0 推 進

1

### 略)

若年層を対象とした対策

に、子が幼少期にある親子に対たこと等について情報を伝え、4限り四○○ミリ! かけや 特に ラクタ ター 目に イン 血  $\mathcal{O}$ 血 る な を 特 理 に 液 連 製剤 ø, 触 性 等 四〇〇ミリリットル全血採血 + 触 タ 若 解 携 Ď れ に を活用し 代 ] ] 年  $\mathcal{O}$ を ボ れ 応じて ラン 合う機会を設ける。  $\mathcal{O}$ 層 を 献 ネ 層 促 図 道 る 意義を伝えることが重要であることか 活 血. 機 ッ 進 ることに 府 へ の 生 及び 0) 期にある親子に対し、 用する等、 に 献  $\vdash$ テ 会 採血所に託児体 て啓発を行うとともに、 啓発には、 ついての広告に国 を 等 啓発には、 イ 血. ·を含. 親子向けの雑誌 推進 増 献 ア やす ょ 組 町 Μ́. り、 ボランティア等 村 ts 体 織 等 実効性 とともに 及 様 験 若年層 採血 若 0 Þ  $\mathcal{O}$ び な 促 協 年層 採 献 のある取り 制を確保する等、 広 進 基 力 血. に組 を得 血者 等 が十七歳 準 報 が 向 0) 事 <u>ш</u> の広報 一の改正 献 業 作 実 手 け -成した献 の同 の協 の雑 際 段 液 者 織 血 るとと 親 の大切さや助 組 を 的 Þ は 心から子 労力を得 から可 手段や血 世代 に が 献 用 誌 血. に 必要で より、 取 ŧ Ш. 液 献 1 から て、 血. ŋ 製 放 血 してもらえ 親子が、地は 能となっ る。 へ献 推 送 組 剤 推 男 あ 進 0) む。 液 気 媒 機 進 さら セン 行合 る。 キャ 働き 血. 性 体、 関 軽 能 活 B 献域 に ま す 的動

L る た 理 を 玉 解 れ 作 は を 5 成し、 材、 深 0 高 め 教 中学生を対象とした血液 校生を対象とした献 都道 るため が材等を活用 府 県 の普及啓発を行う。 市町村 しながら、 及び採 血. や血 献 へ の 液製 血 血 や血 理 事 業 解 剤 水者と協 を促 液 に 2 製 しすポ 剤 V ガし 7 関 ス 解 て タ す

### (略)

献 血. 進 ボ 血 推 事 ランティアとの 進を促すとともに、 業 者 は 玉 及び都 更なる連携を図 道府県の協 将来、 医 j, が力を得 療従事者になろうと 大学等に て、 学生 お け 献 る Ш.

### (略)

若年層を対象とした対策

け 合 血推 から た、 る理 が地 Ш. セ さらに、 となること等について情 男 あ な イ を ンター や血 る。 献 域 性 ンター 連 行 若 の特 の働きか うボ 血 に 進 解 携 特に 年層 を図 0) 限 丰  $\mathcal{O}$ に 液 子が 触 心 ネット等 促 ランテ 性 製 等 ŋ ヤラクター 道 十代層 につい 兀 ~ の れ に 剤 を 進 ることに 府 合う 及び 応じて採血所に託児体記 0 活 幼少期にあ ○○ミリリットル全血 け Ŕ, 意 用 啓 イ ~ の を含む 機会を設け して て、 義を伝えることが重要であることか 発 献 ア 献 12 ょ を活用する等、 ώ. 親子向 啓 啓 血. は ŋ 体 織 発を行うととも る親子に対 報を伝え、 発には、 についての 様 等 験 及 若年 Þ 若年層向  $\mathcal{O}$ び る。 けの な広報手段 促 協 採 進 力 血 採血 雑誌 に組 を 事 献採 広告 効果的 け 献 業 制 Ļ 血者 基準 の雑 織的 を確 等 血が十七歳 血 るとと を用 血 液 に  $\mathcal{O}$ に Þ は 広報 1な取り の改 の協 保 玉 誌 に 血 ]が作成 する 親  $\mathcal{O}$ 液 献 報手段や血液の大切さや助 がら子 て、 放送媒 り組 正 力 組 血 を得 か に が 剤 推 。 ら 可 ょ 必 L 同 む 機 進 5 9 , 要で 世代 る。 た献 へ献 体、 関 能 活 子 能 ま す 的

る理解 L た 玉 れ 作 は、 らの を深めるため 成 材 Ĺ B 高 中学生 教 校 材等 都 生 道 を を 府 を 対 0) 活 県 対象とした血 象とし 普 用 元しなが 及啓発を行う。 市 町 た 村 献 及び 。 ら、 血 液 Þ 採 Ш. 献 0) 血 血事業者と協 液 理解 や血 剤 液 を 製 促 0 剤 す に 力 ポ 7 関 L ス す 7 タ

### 略)

 $\mathcal{O}$ ボ 推 ラン 進 血 ティ を促すとともに、 事 業 アとの 者 は 更 玉 なる 及び 将 連 都 連携を図 来、 道 府 医 県 |療従事者になろうとす り、 0 協 大学等に 力 を 7 お け 学 る 生 献 献 血 血

 $\emptyset$ す れ る者 ても て らう に 事 た 実  $\emptyset$  $\mathcal{O}$ 取 液 a く の 製剤 組 を行行 玉  $\mathcal{O}$ う。 適 正の 献 使 用 血. のに 重 よって 要 性 医  $\mathcal{O}$ 療 が 理 解 支 え を 深 5

## 五. +か 5 六 +· 歳 代を対象とした 対

から 5 で 啓 から لح に 年 '(六十五岁 なっ 六十 0 発 齢 年 玉 エ 11 を 等 六 及 て、 たことに 兀 行 に + 別 び 略 歳 0 歳 人 11 ま 歳 V 代 血 歳から六十九歳までの者につ採血基準の改正により、男性、献血者の増加を図る。また で て 0 に 事 0  $\hat{\mathcal{O}}$ 正 層 占 業 ۲, 間 確 に  $\mathcal{S}$ 者 る献 対 7 に献 な情報を伝 は (情報を伝え、に献血の経験が l 都 Ш. 血液製剤 者の率が 道 府県 え、 験がある者に限 及 また、 1については、六十歳男性に限り六十九歳 の利用 献 低 相 び 五扶 Ш. 11 市 者 傾  $\mathcal{O}$ 血. 助 実 向 村 小板 態 確  $\mathcal{O}$ に  $\mathcal{O}$ 小る。 観 Þ 保 あ 協 を 成 点 献 る 力 <u></u>可 分採 から 义 五. 血 る。 可 十 得 能か ま血の 能 歳

# オ

血リ 求 لح 血 動 る 採 一月 ŧ を ス国献  $\otimes$ Þ ほ Ш. 採 クを に 血. 緊 か 事 ήш. は、 血 液 急 及び二月に 業者ととも 及 び 推 献 製 的 Ш. 低 献進 成分採血の減させる。 血量を確! 血. 剤 に 液 場 に 実 0 所を確保するため、 関する理解と献 施 供 とに、 がする。 (給状況に応じて献血 「はたちの ーン等 の推進及び普及のため、 等の利点がある四〇 保 七月に しやすくするとともに、 また、 の実施 献 「愛の血 様 血 血」キャンペー への協力を呼 々な広報手段を 関係 推 液 者に 進 助  $\bigcirc$ ミリリット キャンペーン け 都 必 合 要な 感 び ン 道 1 を 用 か 運 染 府 実 県 協 け 1 動 症 ると 施 力 て 及 ル 等 献 活 を す び 全の

## 略

2 か 5 3 略

血. 推 進 協 議 会の 活

4

道 府 県 及 び 市 町 村 は 献 血推進協議会を活用 採 血. 事

> 者 らうた る 事 て、 取 液 < 組 剤 0 行  $\mathcal{O}$ 玉 適 民 正の 使 献 用血 パの重要性 温によって! 医 0) 療 理 が支えら 解 を  $\otimes$ れ

て 7

### 五. + 六 代 を 対 象とし た

六十五5 ることについ 等に + を て、 十歳 行 兀 年 国 歳 V, 一 及 び 0 齢 歳 採 1 代 ま 別 級から六十九世 採血基準の改工 献血者の増加 、 て 正 での間に 人口  $\mathcal{O}$ 層 血. に対 て に 事 確 情 な情 業者 占 」 める 献 改正により、 報 L 配血の経験 に歳までの を 加 報 は な伝え、 伝  $\mathcal{O}$ を 献 血. 図る。 並複製剤 え、 経験がある者に限る。)可 <u>ш</u> 道 者 献血 がある者に限る。) 可能となる。) 可能となる 0 府 また、 相互 男性に限り六十九歳 0 率 県 利用実 者の が 及 一扶 確 Ш. 助 市 の観点 小板 態 保 傾 や献 を 向 村 図る。 成 に  $\mathcal{O}$ 分採 協 カュ 血. あ らの啓発 可 る 力 **%まで**( Ш. 能 五. を につ 年 +

V

六

# 略

ヤ ンペ ] ン

オ 献 血 推 び血 IJ を求める。 ととも 献 活 す る 採採 Ш. ス つほか、血液の出一月及び二月に クを低 Þ を ÍI. Ш. に、 ÍI. 緊急 事業者ととも 並 びに 献進 液 献 製 的 減 血キ いさせ 剤 成 量 血. に 分採 場 に 実 を る 所 関 施 供 に 確 成する理 公給状況に を す 「は 血. 等 保 る。 確 0)  $\mathcal{O}$ ľ たち やすくするとともに、等の実施 保 七 推 利 また、 するため 解と献血 月 進 点がある四○ 応じて献 E  $\mathcal{O}$ 及 及び普及 献 「愛の 様 血 への協 々な 関係者 キャンペ Ш. Ш.  $\mathcal{O}$ 推進キ ため、 広 液 ○ミリリ 力を 報 助 に 手 け ] 呼 段 必 ヤ 合 都 感 ンペー を用 ット 要 ンを び 道 染 な か 運 府 症 実施 協 け 11 動 県 ル 7 力 る ン 及全の

# 2から3

献血 推 進 協 議 会 0 活 用

4

都

道

府

県

及び

市

町

村

は、

献

血.

推

進

協議会を活

用

Ļ

採

血.

事

業

者、 望 進 検 まし 討 計 するととも 画 Ш. い。  $\mathcal{O}$ 液 策 事 定 業  $\mathcal{O}$ E に ほ関 わる民 カュ 民 間の献血推進組織の育成等を行う献血や血液製剤に関する教育及び 7間組織等と連携して、 **风等を行うことが** る教育及び啓発を を

5 略

略

第三 その 献 血. 0) 他 推 献 進に Ш́.  $\mathcal{O}$ 際 推 Ļ 進 に 考慮すべき事項に関する重要事項

2 1 略

献 ή. 者 0 利 便 性 0) 向 上

る。 広 供 血. 等、 報 車 1 都 7、採血事業者の献血の受入れに協力することが重要で-による採血等の日程を設定し、そのための公共施設の1道府県及び市町村は、採血事業者と十分協議して移動 を て ま 行う必 た 玉 民 採 要がある。 に 血. 対 事 業者ととも 7 献 血 に、 0 協力が得ら 献 血. 実施 れるよう  $\mathcal{O}$ 日 時 Þ 場 ※所等に 分 あ 提 採

3 カコ ら 5 ・略

6 二〇〇ミリリット ル 全血 採 血 の在り方に つい

が 性 あ 玉 る。 は 製 造 都 効率 四 道 ○○ミリリットル全血採血を基本として行う必 府 n. 県、 医 療機関の 市 町 村 需要の観点から、 び 採血事業者 は 献 血 血. 液 を推進する 製 剤の 安 全 要

若 〇〇ミリ 啓 7 年 発 は 層 カゝ 0) 0) L IJ 取 学 献 な ッ 組 校と連携 血 が , b, 1 を積極的に行うとともに 推進が非常に重要であることから ル 全血採血を推進することが重要である。 将 して 来 0 献 献血セミナー」を実施する等 血基盤 0 確 保と 初 いう 口 献 血を中心に一 観 若年層に対 点 カゝ 6 は、 周

> 推進計 者及び・ が を検討するととも 望まし 画 Ш. の策事 策定の ほ関 か、 わる 民 間 献民 血間や組 0) | に関する教育及び 携して、都道府県 0 育 成等 を行うこと 啓発 献 血

5 (略)

(略)

第三 その他な 献血の 推 献 進 Μ́. に  $\mathcal{O}$ 推 際 し、 進に 考 関 慮すべ はする 重 き事 要事 項項

1 (略)

2 献血 者  $\mathcal{O}$ 利 便 性  $\mathcal{O}$ 向 上

(略)

る。 供等、 Ш. 車による採 都道· 採 府 血. 県 事業者 及 (血等の) 0 日程を設定し、そのため、村は、採血事業者と十分 献 血. の受入れに協力することが 事業者と十分協  $\mathcal{O}$ 公共 議 L て移 重 施 設 で  $\mathcal{O}$ 動 あ提採

3 から5

6

二〇〇ミリリ ット ル 全 血 採 血  $\mathcal{O}$ 在 ŋ 方  $\bigcirc$ 

は  $\overline{\bigcirc}$ 〇 ミ リ IJ ツ 1 ル 全 血. 採 血.  $\mathcal{O}$ 在り方につ V

医

機関 に おけ る使用実態等を踏まえ 検討を行う。

療

三三 略

\_ 三

略

災害時等

に

お

け

る

献

血.

0

確保等

災害時等に おける 献 血. 0 確 保等

略

略

いよう、 である。 えた 給すること 況となっ 域 献 成 (岩 血 ήш. た 手 + 継 が 液 が 県 続 的 で を 年三月 きた。 に 確 全 宮 全 保 玉 城 国 す 県  $\hat{O}$  $\mathcal{O}$ 、ることに 東日本大震災により、 的 非 今 ,後も、 な献 被災 福島県) 地 ή. にお の 推 ょ 献 って、 Ш. で 進を図 いて被 献 血. 液 血. の受入  $\mathcal{O}$ 血. つて 液製 災 確 保に 地 東 剤 いくことが 域 れ 北 支障 を安定的に  $\mathcal{O}$ が 地 需 できない 方 三要分を加 0 を来さな 重 部 供 要 状  $\mathcal{O}$ 

線を含 る 通 動 都 ま 必 採 た 信 道 精 要が 手段 む。 府 血. 油 県 車 東 所 あ 等 等 日  $\mathcal{O}$ る。 確 0 市  $\mathcal{O}$ 0) 本 被災 保 町 燃 輻 大 村及び .. S 料 震 輳 、燃料の確保が確実に行われるよう対策 É に 災  $\mathcal{O}$ 燃料 確 ょ 0) 保も 際に り 採 血事業者  $\mathcal{O}$ は、 流 木 通 難となっ 通 信 に支障 手段 停 電や は  $\mathcal{O}$ た。 災 が 確 害 生 般 保 じ 時 が 電 等 0) たことにより、 話 木 ことから、 難 口 となったほ 備 線 iiえた複 (携帯 を 数 講 玉 口

献 血. 推 進

兀

受入れ 及び  $\mathcal{O}$ 施策を見直すことが必要である。 成に当たり参考とする。また、 玉 長 の実績を確認し、その評価を次年度の献血は期的な効果及び進捗状況並びに採血事業者に都道府県及び市町村は、献血推進のためのは 施策の進捗状況等に関する確認と評 必要に応じ、 献血 価 推進 による献 施 推 策 進 計  $\mathcal{O}$  $\bigcirc$ 画 短 た等血期的

略

兀

受入れの実績を確認し、又は長期的な効果及び進国、都道府県及び市町 の施策を見直すことが必要作成に当たり参考とする。 施策を見直すことが必要である。 献 血. 進 施 を確認し、その評価を次年度の献 策  $\mathcal{O}$ 進 進 町 状 捗状況並びに採血事業者 村 況 また、必要に応じ、 は、 等に 献血推進の関する確認 でのため と評 献 血.  $\mathcal{O}$ によるな 血 推 施 推 進 策 進 計 0 0) 画 献 短 た等血のの 期 的

略